

第17回

癥痕・ケロイド治療研究会

『癥痕の予防と治療-現実から理想へ-』

会場: 熊本市民会館シアーズホーム
夢ホール

会期: 10月23日(日)

開始時間: 9:30

主催: 大分大学医学部 形成外科

会長: 診療教授 清水 史明

(097-586-5882)



第 17 回癬痕・ケロイド治療研究会

癬痕の予防と治療 —現実から理想へ—

2022（令和 4）年 10 月 23 日

会場

熊本市民会館シアーズホーム夢ホール

熊本市中央区桜町 1-3

会長 清水史明

大分大学医学部附属病院 形成外科

会場のご案内

熊本市市民会館シアーズホーム夢ホール大会議室

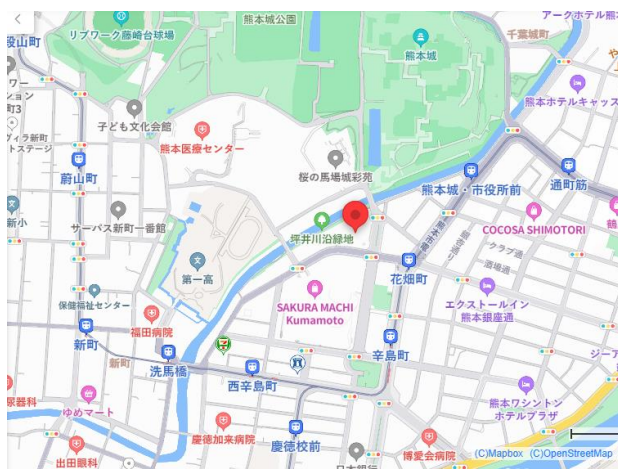
熊本市中心区桜町1-3

TEL : 096-355-5235 FAX : 096-355-5239

交通アクセス

- ・熊本桜町バスターミナル～市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市市民会館）（徒歩5分）
- ・熊本市役所～市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市市民会館）（徒歩5分）
- ・熊本空港～市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市市民会館）（タクシー約40分）
- ・熊本空港～熊本桜町バスターミナル（空港バス約50分）
- ・熊本駅～市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市市民会館）（タクシー約10分）
- ・熊本駅～熊本桜町バスターミナル（バス約15分）
- ・熊本駅～花畑町電停（市営電車約15分）

※・大ホール外の駐車場はございませんので、公共の交通機関をご利用ください。



ご挨拶

このたび、第17回癬痕・ケロイド治療研究会を2022年10月23日(日)の会期で、熊本市民会館シアーズホーム夢ホール 大会議室にて開催させていただくことになりました。

今回のテーマを、癬痕の予防と治療 ―現実から理想へ―とさせていただきます。ご存じのとおり、いまだにケロイドや肥厚性癬痕を完全に予防・治癒させる方法は存在していません。しかし、様々な研究者により、そのメカニズムの解明も進んでおり、新たな予防法や治療法開発の機運が盛り上がりつつあるのも現状です。そこで、今回は日本医科大学形成外科の小川令教授に特別講演を依頼し、現在の傷跡治療の最新の知見を講演いただくこととなっております。また、シンポジウムでは、傷跡治療の最新研究を行っている先生方に演者を依頼して、傷跡治療の未来について議論を深めたいと思っています。

いまだに新型コロナウイルスの影響が長引いている状況です。研究会での感染を防ぐことが最重要として、開催したいと思います。

大分大学主催ですが、今回熊本で開催としました。前日10月22日(土)に九州・沖縄形成外科学会が熊本にて黒川正人先生主催で開催されます。本会に九州の形成外科医師にも多く参加いただく機会と考えたため、翌日の10月23日(日)に熊本開催としました。

会場の目の前には熊本城があります。震災で大きな被害を受けましたが、現在は立派に復興が進んでおり、我々に大きな勇気を与えてくれます。困難な状況の中での開催が予想されますが、有益な学会となるよう、教職員一同とともに鋭意準備しております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

会長 清水史明

大分大学医学部附属病院 形成外科

第 17 回癬痕ケロイド治療研究会の御案内

1. 学術集会

- (1) 受付は当日 9 時より行います。
- (2) 開催形式は現地開催のみとしています。
- (3) 会費 **5,000 円**を申し受けます。
- (4) 研修医・医学生の会費は無料です。
- (5) 一般口演時間は 6 分以内、討論は 3 分とします。
- (6) シンポジウムは口演時間 15 分以内とします。
- (7) 演者は発表開始時間の 30 分前までに PC センターにてデータ登録・動作確認をして下さい。データは **USB フラッシュメモリー**にてご用意ください(ウイルスチェックを済ませたものをご持参下さい)。

2. 理事会

15 時 10 分より、会終了後に会場（大会議室）にて行います。

3. ランチョンセミナー

共催：クックメディカル合同会社

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング

12 時 00 分より会場にて行います。

演者：サキサカ病院形成外科・美容外科 匂坂正信 先生

熊本大学病院形成外科 伊方敏勝 先生

お弁当を用意しております。

4. 特別講演

13 時 10 分より行います。

熊本市民会館シアーズホーム夢ホール大会議室

演者：日本医科大学形成外科 小川令教授

本講演は形成外科領域講習（1 単位）となっております。専門医更新のため、単位取得希望の方は、別途 1,000 円の講習料が必要です。

5. 機器展示 熊本市民会館シアーズホーム夢ホール大会議室前

6. クローク

7. 場所：熊本市民会館シアーズホーム夢ホール大会議室前
貴重品・パソコンはご自身で管理してください。

時間：2022年10月23日(日) 9時00分～16時00分

8. 館内について

会場内は禁煙です。指定の喫煙所をご利用ください。

連絡先

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地

TEL 097-586-5882 FAX 097-586-5889

大分大学医学部附属病院形成外科

上原 幸

E-mail:keisei@oita-u.ac.jp

座長・演者の先生方へのお知らせ

【座長の方へ】

- 1) 座長受付はございません。セッション開始の10分前までに、次座長席に、ご着席ください。
- 2) 発表時間については下記をご覧ください。進行・形式は各位にお任せしますが、時間厳守でお願いいたします。

【演者の方へ】

- 1) 演題発表につきましては、コンピュータープレゼンテーションのみです。発表データは、**USBフラッシュメモリ**に保存してご持参ください。また保存していただく際には発表データのファイル名を「(演題番号)

(演者氏名)」としてください。会場にご用意する PC の OS は Window 10 となります。またアプリケーションソフトは Microsoft Power Point2010/2013/2016/2019 となります。

Macintosh には対応しておりませんので、ご利用になる場合は、念のため動作確認済みの PC をご持参ください。事務局ではパソコンの貸し出しはいたしません。尚、AC アダプターご持参もお願いします。

発表中の画像操作は、演題に置かれたモニター、マウス、を使用し、ご自身でお進めください。

次演者席を設けますので、前演者が登壇されましたら、次演者席にお着きください。

- 2) 一般口演発表時間は発表 6 分、討論 3 分、計 9 分
シンポジウム演者は発表 15 分以内です。
発表時間の厳守をお願い申し上げます。

【発言者の方へ】

- 1) 予めマイクの前に立って座長の指示に従い、所属・氏名を述べたのち簡潔に発言して下さい。
- 2) 単なる追加発言はご遠慮ください。

プログラム

開会の辞（9：30－9：35）

会長 清水 史明

演題1－5（9：35－10：20）

座長 土肥輝之

1. 前胸部ケロイドに対して内胸動脈穿通枝皮弁を用いた4例
福岡大学 形成外科 ○前岡尚憲
2. 胸部ケロイドの発生分布と各種力学的要素の関連性の検討
日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科 ○若井英恵
3. 尿道下裂術後の尿道狭窄を生じた症例に対し、尺側前腕皮弁で尿道再建を行った2症例の長期経過について
大阪医科薬科大学病院 形成外科 ○大橋剛輝
4. 手足合指（趾）症における当院での背側矩形皮弁法の工夫と術後形態の検討
大阪医科薬科大学病院 形成外科 ○木野紘美
5. 漢方を併用した瘻瘡癒痕の予防と治療
医療法人薫風会 毛山病院 形成外科 ○毛山剛

シンポジウム(10：30－11：50)

テーマ「現実から理想へ」

司会 土佐泰祥、富士森英之

1. メカニカルストレスに着目したケロイド基礎研究
慶應義塾大学医学部 形成外科 ○岡部圭介
2. 新規マウス腹壁癒痕モデルの作製：コラーゲン由来ペプチドによる癒痕抑制効果と筋肉再生
福岡大学医学部形成外科学 ○自見至郎
3. ケロイド増悪要因としての神経の関与
兵庫医科大学 形成外科 ○藤原敏宏

4. 基礎研究から考える未来のケロイド治療の可能性について

日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科 ○土佐真美子

ランチョンセミナー (12:00-13:00)

司会 黒川正人、増口信一

共催：クックメディカル合同会社

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング

OASIS®細胞外マトリックスを用いた植皮術 早期上皮化の試みと組織学的評価

演者：サキサカ病院形成外科・美容外科

○匂坂正信

自家培養表皮を用いた先天性巨大色素性母斑治療における肥厚性瘢痕への対応

演者： 熊本大学病院形成外科

○伊方敏勝

特別講演 (形成外科領域講習) (13:10-14:10)

司会 清水史明

傷あと・ケロイド治療の世界的趨勢 ～歴史を知って今後を考察する！～

演者：日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科 小川令

演題 6-9 (14:20-14:56) 座長 河野太郎

6. 顔面・頸部におけるケロイド分布および力学的要素の解析研究

日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科 ○張萌雄

7. Keloidal Dermatofibroma 37 例の検討 ～皮膚線維腫の一部は線維増殖性疾患か？

日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科

○西本あか奈

8. ステロイド局所注射にて副作用を生じた3例

大分県立病院形成外科

○加藤愛子

9. ケロイド評価のための人工知能開発について

大分大学医学部附属病院 形成外科

○岩本直朗

閉会の辞

15:00-

会長 清水史明

理事会 15:10-

抄録

開会の辞（9：30－9：35）

会長 清水 史明

演題 1－5（9：35－10：20）

座長 土肥輝之

1. 前胸部ケロイドに対して内胸動脈穿通枝皮弁を用いた 4 例

○前岡尚憲 1)、清水史明 2)、上原幸 2)、野中侑紀 2)、平石瞳美 2)、

1) 福岡大学 形成外科 2) 大分大学医学部附属病院形成外科

疼痛や搔痒感等の自覚症状が強く、保存的治療のみでコントロール不良なケロイドに対しては、外科的治療及び術後電子線照射が適応となる場合が多い。瘢痕全切除後に単純縫縮ができない場合は皮弁再建が一つの選択肢となる。今回、前胸部ケロイド 4 例に対して、ケロイド全切除後内胸動脈穿通枝皮弁による再建を行い、術後電子線照射を施行した。4 例とも皮弁は全生着した。全例において、拘縮は解除され、追加後療法なしで JSW Scar Scale 0 点を保っている。広範囲な前胸部ケロイド 4 例に対し、内胸動脈穿通枝皮弁は有効であった。本術式は前胸部皮膚欠損部に皮弁を挿入することで、創部にかかる緊張を軽減し、ケロイドの再発を抑えられたと考えた。ドナー部に新たな傷を作る等の問題はあり、その適応決定には慎重さを要すが、一つの有効な治療選択肢と思われた。

2. 胸部ケロイドの発生分布と各種力学的要素の関連性の検討

○若井英恵、土肥輝之、張萌雄、小川令

日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科

【目的】異常癬痕は真皮深層まで達する炎症を契機に、伸展張力の力学的刺激が加わる部位で好発することが示唆されている。ケロイドは胸部に最も多いとされるが局在や伸展運動の解析は一部に留まっていた。本研究では胸部の詳細なケロイド病変の発生分布と日常生活動作に即した力学的要素の詳細な解析を行い、その関連性を検討した。

【方法】胸部ケロイドを有する男性患者 53 名の臨床写真にて分布を解析した。胸部における安静坐位姿勢を基本として仰臥位への変換時の皮膚の張力・硬度・厚さの変化を測定し比較検討を行った (n=5)。

【結果考察】胸部正中の乳頭内側～胸骨上にケロイドが集中し、特に伸展変化・硬度変化率が高い部位であることが判明した。ケロイド好発部位はざ瘡の分布も考慮する必要があるがあり、誘因となる炎症の発生頻度が高く、創傷治癒過程で伸展・硬度変化の大きい部位にケロイドが好発したことが示唆され、今後さらに症例数を重ね検討していきたい。

3. 尿道下裂術後の尿道狭窄を生じた症例に対し、尺側前腕皮弁で尿道再建を行った2症例の長期経過について

○大橋剛輝、由本章子、木野紘美、上田晃一

大阪医科薬科大学病院 形成外科

尿道下裂は、前部尿道の異形成に伴う先天性尿道異常であり発生率は男性新生児 300 人に 1 人程度である。初回手術術後に尿道狭窄を生じた症例は難治性となりやすく、多くの場合複数回の手術を必要とする。以前我々は、同様の症例に対して尺側前腕皮弁を用いて良好な結果を得た事を報告した。今回は同手術を行った 2 症例の長期経過について若干の考察を加えて報告する。1 例で尿道再建後約 12 年間良好な経過を辿った後に尿道狭窄を生じ、植皮術を追加して現在まで尿道狭窄の再発なく経過している。もう 1 例では術後約 11 年間問題なく経過した後に尿道狭窄を生じたが、バルーンによる尿道拡張で改善しており追加の手術は行っていない。2 症例とも尿道と皮弁の接続部に狭窄を認めており、尺側前腕皮弁による尿道再建は良好な手術方法であるが、術後約 10 年で移行上皮と扁平上皮の接続部の上皮の違いに問題が生じる可能性がある。

4. 手足合指（趾）症における当院での背側矩形皮弁法の工夫と術後形態の検討

○木野紘美、上田晃一、大橋剛輝、由本章子、
大阪医科薬科大学 形成外科

手足の合指（趾）症手術は矩形皮弁や、三角皮弁など施設により様々な方法が行われており、いずれの術式においても機能的・整容的な結果が求められる。当院ではこれまで矩形皮弁と遊離植皮術による指間形成術を施行してきた。生理的な指間を考慮すると、指間は両側を円柱状である指に挟まれているため、内側にくびれた形態をしている。この形態に着目し、当院では2011年頃より矩形皮弁斜辺にくびれをつける方法を行ってきた。今回2011年1月～2022年2月に当院で行った手足の合（多）指（趾）症手術を行った29症例43指（趾）間を対象とし、矩形皮弁の斜辺を直線型で施行したものとくびれ型で施行したものに分類した。それぞれの型で術後の指間形態、皮弁や植皮の癒痕の程度、指（趾）間の開き具合を比較し、検討したので考察を加えて報告する。

5. 漢方を併用した痤瘡癬痕の予防と治療

○毛山剛、毛山 章

医療法人薫風会 毛山病院 形成外科

痤瘡癬痕は、尋常性痤瘡(紅色丘疹・膿疱)が軽快した後に生じ、皮膚の色素沈着、隆起、陥凹からなる病変である。肥厚性癬痕・ケロイドとなった場合は整容的な苦痛が大きいため、医療機関を受診する割合が高くなると思われる。しかし、臨床の場で尋常性痤瘡の患者を診ていると mini-scar や萎縮性癬痕を気にしている患者も多い。このような痤瘡癬痕は、一度生じると難治であり元に戻すのは困難である。そのため、痤瘡癬痕を残さない痤瘡治療を行うことが重要であり、痤瘡の炎症期に積極的に治療に介入することが痤瘡癬痕形成予防に繋がる。

痤瘡の治療には、西洋学的治療に加えて漢方における清熱剤と駆瘀血剤の2剤を併用することが効果的であると報告されている。当院では、この2剤を用いて痤瘡の炎症を改善させた後に、柴苓湯などの漢方を追加・変更することで痤瘡癬痕の予防と治療を積極的に行っている。考察を含めて報告する。

シンポジウム(10:30-11:50)

テーマ「現実から理想へ」

司会 土佐泰祥、富士森英之

1. メカニカルストレスに着目したケロイド基礎研究

慶応義塾大学医学部 形成外科

○岡部圭介

ケロイドの発生や増悪に影響を与える要因のひとつとしてメカニカルストレスが挙げられる。術後創部に力学的刺激を加えると瘢痕が拡大したり膨隆したりする現象はかなり以前から知られていたが、近年、細胞に加わる力学的刺激が細胞内シグナルへ変換され伝達される仕組み (mechanotransduction と呼ばれる) の一端が明らかとなり、種々の疾患領域で研究が行われている。ケロイドにおけるメカニカルストレスの役割とその実体を明らかにするために、演者らは、三次元培養モデル、マウスモデルを新規に開発し、それらに張力刺激を加えることで変化する因子の抽出を試みた。また、それらをケロイド患者由来組織と比較して妥当性について検討している。本発表ではその進捗を報告し、今後の展望について考察する。

2. 新規マウス腹壁癒痕モデルの作製：コラーゲン由来ペプチドによる癒痕抑制効果と筋肉再生

福岡大学医学部形成外科学

○自見至郎

創傷治癒後の癒痕形成は臨床上的の問題である。癒痕研究のための適切な動物モデルがないため、マウスモデルを開発した。治療としてコラーゲンのジペプチドである **Pro-Hyp** を投与し、癒痕形成に対する治療効果を検討した。実験 3 週間後、線維芽細胞の過剰増殖による結節病変が形成された。病変は肥厚性癒痕に類似していた。また筋肉の反応性再生も認めた。**Pro-Hyp** 投与により癒痕病変は減少し、筋肉再生が増加した。本モデルは癒痕モデルとして有用と考える。

3. ケロイド増悪要因としての神経の関与

兵庫医科大学 形成外科

○藤原敏宏

皮膚の創傷治癒過程ではさまざまな細胞が相互関与し、決められた時期に決められた役割を担うことで成熟瘢痕に至る。創傷治癒過程に関わる細胞について多くの研究が行われているが、神経の役割について論じられることは少ない。皮膚には知覚神経や自律神経が分布しており、創傷治癒過程に何らかの影響を与えている可能性が示唆される。

末梢神経の創傷治癒における役割を調査するために末梢神経と線維芽細胞の相互作用に焦点を当てて *in vitro* での基礎研究を行った。結果、皮膚線維芽細胞は神経突起を伸長した PC12 細胞によって筋線維芽細胞に分化誘導され、創収縮を促進することが示唆された。またこれらの細胞に繰り返しの伸展刺激を加え、共培養することでお互いの分化誘導がさらに促進された。

本研究結果は神経細胞もケロイド増悪に関わる可能性を強く示唆している。今後ケロイドの病態解明および治療法の開発に発展させていきたい。

4. 基礎研究から考える未来のケロイド治療の可能性について

日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科 ○土佐眞美子

ケロイドは放置すれば、拡大し、強い痛みや痒みを伴う。ケロイドモデルが確立していないため、特効薬はなく、新治療薬の開発のための研究は急務である。われわれは、ケロイド発生機序の解明と特効薬開発を目標として、主に、ケロイドの慢性炎症的側面と腫瘍的側面に着目した基礎研究を行ってきた。慢性炎症的側面としては、ケロイドにおける IL-6 シグナル亢進やヘルパーT細胞の関与などについて報告してきた。一方、ケロイドの腫瘍的側面としては、ケロイドにおける WNT シグナル亢進やチロシンキナーゼの関与などにつき報告し、現在は、真皮組織幹細胞を対象とした解析を行い、ケロイドの隆起部・辺縁部・ケロイド周囲正常真皮部などにおける遺伝子発現パターンのプロファイルを検討し、それぞれの特徴についての解析を継続中である。研究結果を供覧するとともに、未来のケロイド治療薬実用化までのハードル克服方法などについてもディスカッションしたい。

ランチョンセミナー（12：00－13：00）

司会 黒川正人、増口信一

共催：クックメディカル合同会社

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング

OASIS®細胞外マトリックスを用いた植皮術 早期上皮化の試みと組織学的評価

演者：サキサカ病院形成外科・美容外科

○匂坂正信

自家培養表皮を用いた先天性巨大色素性母斑治療における肥厚性瘢痕への対応

演者：熊本大学病院形成外科

○伊方敏勝

特別講演（形成外科領域講習）（13：10－14：10）

司会 清水史明

傷あと・ケロイド治療の世界的趨勢
～歴史を知って今後を考察する！～

日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科教授

○小川令

6. 顔面・頸部におけるケロイド分布および力学的要素の解析研究

○張 萌雄、土肥 輝之、若井 英恵、小川 令

日本医科大学付属病院 形成外科・再建外科・美容外科

【目的】ケロイド発生に力学的刺激の関与がわかってきたが、既存の研究では体の局所的な解析に留まっている。われわれは顔面・頸部全域におけるケロイド分布の調査と、日常生活動作に即した各種力学的要素の解析を行なった。

【方法】顔面・頸部ケロイド患者 113 名の詳細な分布を調査し、各種力学的要素を健常者 10 名で解析した。座位および安静表情を基本とし、姿勢変換時(仰臥位)と座位表情変化時における、皮膚の①硬度・硬度変化、②伸展変化、③厚さ・厚さ変化を測定・解析した。

【結果】ケロイドは下顎角部に最も集中し、多変量解析の結果、顔面では姿勢変換時の皮膚厚変化および伸展変化がケロイド分布と相関を示した。

【考察】多角的な評価により姿勢変換時の皮膚 3 次元変化とケロイド分布との相関が判明し、日常生活動作の中でも姿勢変換が重要な因子であることが示された。さらに検討を重ね、異常瘢痕発生メカニズムの解明を目指したい。

7. Keloidal Dermatofibroma 37 例の検討 ～皮膚線維腫の一部は線維増殖性疾患か？

○西本あか奈¹⁾、安齋眞一²⁾、桑原大彰¹⁾、赤石論史¹⁾、小川令³⁾

1 日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科

2 日本医科大学武蔵小杉病院 皮膚科

3 日本医科大学付属病院 形成外科・再建外科・美容外科
日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科

皮膚線維腫は多数の亜型が知られ、そのうち Keloidal dermatofibroma (KDF) は、ケロイドと共通の所見を有する特殊な亜型とされるが、頻度の少なさゆえに多数例の検討報告はない。我々は 37 例の KDF を含む 2136 例の皮膚線維腫の病理学的検討を行ったため、報告する。

当院皮膚科に 2016 年以降提出された皮膚線維腫のバーチャルスライドより、KDF 群と非 KDF 群においてサイズ、深度、細胞密度、付随所見、及び性別、年齢、部位に統計学的な有意差があるか検討した。

結果、KDF は前腕、手に有意に好発していた。有意に浅い部位に存在し、細胞密度は高かった。また出血を高頻度で伴っていた。

皮膚線維腫は近年一部で遺伝子変異を認め、より腫瘍性と考えられるようになった。しかし本検討より、KDF に代表される一部の皮膚線維腫は外傷などを契機とする反応性病変であることを示唆する所見が確認された。

8. ステロイド局所注射にて副作用を生じた3例

○加藤愛子、野中侑紀

大分県立病院形成外科

ケロイド・肥厚性瘢痕に対するステロイド局所注射療法は、2021年版形成外科診療ガイドラインにて、いずれも推奨度1Bと強く推奨されており、今日においても広く一般的に行われている治療法である。副作用としては、医原性 Cushing 症候群、皮膚萎縮、脂肪萎縮、毛細血管拡張、注射痛等が知られており、今回我々は比較的広範囲に皮膚萎縮等の副作用を生じた3例を経験した。いずれの症例もトリアムシノロンを1か月以上の間隔で2回局所注射し、6か月以上経過後に元々のケロイド・肥厚性瘢痕の範囲を超えて萎縮を生じた。若干の文献的考察を加えて報告する。

9. ケロイド評価のための人工知能開発について

○岩本直朗、清水史明、上原幸、呉偉民、平石瞳美、野中侑紀
大分大学医学部附属病院 形成外科

ケロイド治療においては、その病勢を評価して、それに応じた治療法を選択していくことが重要である。近年、本邦を中心に JSW scar scale を用いて傷跡の病態を評価し、治療法を選択する治療指針が作成され、多く用いられるようになった。評価の際、傷あとの「赤さ」、「隆起」、「発赤浸潤」の程度を肉眼的に評価する必要があり、この部分を人工知能に判断させることが可能であると考え、現在その開発を行っている。今回はその成果の一部を発表する。

閉会の辞 15:00-

会長 清水史明

理事会 15:10-

謝 辞

学術集会開催にあたり下記の皆様にご協力いただきました。
ここに幸甚なる感謝の意を表します。

第 17 回 癩痕・ケロイド治療研究会
会長 清水 史明

ランチョンセミナー

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング
クックメディカル合同会社

企業展示

株式会社ベアーメディック
TMSC 株式会社

広告

科研製薬株式会社
株式会社ベアーメディック
帝國製薬株式会社
ニプロ株式会社
ニチバン株式会社

寄付

敬和会大分岡病院
恵愛会中村病院
恵愛会大分中村病院
進修会おおつかクリニック
天心堂へつぎ病院

TEIKOKU

外用合成副腎皮質ホルモン剤

製造販売承認

ダイアコート[®] 軟膏0.05%・クリーム0.05%

DIACORT[®] Ointment 0.05%・Cream 0.05% ジフロラソン酢酸エステル軟膏・クリーム

製造販売元

帝國製薬株式会社
香川県東かがわ市三本松567番地



皮膚疾患用密封療法剤

製造販売承認

ドレニゾンテープ[®]4 μ g/cm²

DRENISON Tapes フルドロキシコルチドテープ

製造販売元

住友ファーマ株式会社
大阪市中央区道修町2-6-8

販売元

帝國製薬株式会社
香川県東かがわ市三本松567番地

【製造情報お問い合わせ先】
営業管理部・製造情報課
TEL: 0120-189-567
受付時間: 月～金 9:00～17:30(祝日、当社休日を除く)
https://www.teikoku.co.jp/med_database/

効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む重要な基本的注意等については、電子添文をご参照ください。

2022.4作成



日本製
MADE IN JAPAN

手術後の傷あとケアテープ

Ato fine⁺
アトファイン

Point 1 1枚で“簡単ケア”

Point 2 肌に優しく“長く続けられる”

Point 3 ウェーブ形状で“はがれにくい”



「傷あと」に5サイズ
合わせて

ニチバン株式会社

〒112-8663 東京都文京区関口 2-3-3 ウェブサイト <https://www.nichiban.co.jp/>

ニチバン 目立たない傷あとを隠して 検索



二次治癒親水性ゲル化創傷被覆・保護材

バスキチン[®]W-A



[使用方法]



銘柄	機能区分	形状	サイズ (cm×cm)	商品名	包装 単位
バスキチンW-A	皮膚と創傷創傷被覆材 (①: 皮下組織・皮下組織層 (標準型))	織状	S 5×6	バスキチンW-A BC W-A-S	10枚 /箱
		フリース	M 10×10	バスキチンW-A BC W-A	

(資料請求先) ニプロ株式会社

大阪市北区本庄西3丁目9番3号
<http://www.nipro.co.jp/>

医療機器についてのお問い合わせ(医療機器情報室)

0120-226-410 FAX 06-6373-0564

2019年9月作成



爪白癬治療剤

エフィナコナゾール外用液

クレナフィン® 爪外用液10%

処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載



褥瘡・皮膚潰瘍治療剤

トラフェルミン(遺伝子組換え)製剤

フィブラスト® スプレー250/500

処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載

- 各製品の効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については電子添文をご参照ください。



製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先)
科研製薬株式会社
東京都文京区本駒込二丁目28番8号
医薬品情報サービス室

(2022年5月作成) 2CF03CK

革命針 特許申請中

～未来に繋がる縫合針～

コンパウンドニードル



真皮組織を点でなく

面で捉えた融合針

監修: 蘇春堂形成外科 院長
矢島 和宣 先生



クロノイド針 意匠登録



逆クロノイド

監修: 名古屋大学形成外科 准教授

工学理論に基づく使用しやすい針

橋川 和信先生



地域未来牽引企業

株式会社ベアーメディック

本社工場 〒319-3526 茨城県久慈郡大子町大子1361
TEL: 0295-72-1811 FAX: 0295-72-4157

<http://www.bearmedic.co.jp>
info@bearmedic.co.jp



東京営業所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24
湯島ベアービル
TEL: 03-3818-4041 FAX: 03-3818-4042
大阪営業所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島7-1-26
オリエンタル新大阪ビル702号
TEL: 06-6732-9550 FAX: 06-6732-9552